

今、原子力の未来を描くために

## 社会の持続的な発展のため、 原子力利用の促進に努めます。

地球温暖化への対応は最優先の国際的課題となり、多くの国が2050年カーボンニュートラルの目標を強く意識するようになりました。わが国も2050年までのカーボンニュートラル達成を国際的に公約し、これを受けた第6次エネルギー基本計画では、原子力発電を「安全性の確保を大前提に、長期的なエネルギー需給構造の安定性に寄与する重要なベースロード電源」と位置付け、「必要な規模を持続的に活用する」と明記されました。

また、近年ますます厳しくなる国際情勢や資源価格の高騰を踏まえ、エネルギー安全保障にも大きな関心が集まっています。安全性を前提として、エネルギーの安定供給、経済効率性と同時に、環境への適合を図るS+3Eの視点でも優位であり、かつその設備の多くが国内産業の技術を用いる原子力は、わが国にとって不可欠なエネルギー源であると言えます。こうした役割を果たすため、原子力産業界は、安全確保を大前提とした原子力発電所の早期再稼働、運転期間の延長、新增設やリプレースの課題にも積極的に取り組んでまいります。

特に、国内外で進行する開発プロジェクトを継続して支え、さらにわが国において原子力を持続的に活用していくために、優秀な人材の確保育成、技術および産業基盤の維持確保も重要な務めです。

福島では関係者の不断の努力により、帰還困難区域の解除にむけた取組みが進められています。原子力産業界は「福島の復興・再生なくして日本の原子力の将来はない」と肝に銘じ、復興再生の動きを一層後押しするべく引き続き取り組んでまいります。

私ども日本原子力産業協会は、原子力産業が国民生活や産業活動を将来にわたって支え続けることができるよう、引き続き国内外のネットワークを生かして、原子力に関するわかりやすい情報の発信に努めるとともに、理解促進、人材育成および国際協力の諸活動を進めてまいります。

### 原子力産業安全憲章

- 第1条 いかなる状況にあっても、責任感と使命感をもち、安全確保をすべてに優先させる
- 第2条 過去の失敗事例に謙虚に学び、安全情報の共有により安全対策の徹底をはかる
- 第3条 不安全と感じたことをいつでも話し合える、風通しのよい職場環境づくりにつとめる
- 第4条 良好な安全実績にも慢心することなく、常に「問い合わせる姿勢」を持ち続ける
- 第5条 広く社会の声に誠実に耳を傾けるとともに、マイナス情報も積極的に公開する

2006年10月23日制定 原産協会は、原子力関係の事業に携わる者すべてが常に心しなければならない理念として、上記憲章を制定しました。

会長 今井 敬



### 会員入会のご案内

[www.jaif.or.jp](http://www.jaif.or.jp)



当協会は、民間企業、関係団体、研究開発機関、大学、地方自治体など、多様な会員により構成されております。この広範なネットワークを通じて、原子力に関する「地域・国民理解の促進」、「人材確保・育成」、「国際協力」ならびに「会員連携」を活動の柱とした様々な事業を積極的に行っております。

#### 会員サービス内容

- ①「原子力新年の集い」への参加
- ②「原産会員フォーラム」への参加
- ③原産年次大会、国際会議などへの会員価格による参加
- ④各種刊行物の会員価格での提供
- ⑤原子力産業セミナー(学生向け原子力産業のPRと合同企業説明会)  
ブース出展(有料)
- ⑥会員限定情報の提供
- ⑦メールマガジン[原産会員エクスプレス]の配信

年会費：一口(13万円)から。※入会金不要

#### お問い合わせ先：

地域交流部 TEL:03-6256-9314 E-mail:kaimu@jaif.or.jp



一般社団法人日本原子力産業協会  
JAPAN ATOMIC INDUSTRIAL FORUM, INC.

活動に取り組んでいます。日本原子力産業協会は、私たちは日本原子力産業の発展に寄与する組織です。



#### 協会概要

名称 一般社団法人 日本原子力産業協会  
(略称:原産協会)  
英語名 JAPAN ATOMIC INDUSTRIAL FORUM, INC.

##### 沿革

1956年(昭和31年)3月16日  
社団法人 日本原子力産業会議発足  
1960年(昭和35年)5月27日  
世界初の国際原子力機関(IAEA)諮詢的地位を取得  
2006年(平成18年)4月1日  
改組・改革し、社団法人 日本原子力産業協会と名称変更  
2012年(平成24年)4月1日  
一般社団法人 日本原子力産業協会へ移行

#### 事業コンセプト

原産協会のValue(客観性、多様性、国際性)を活かし、「地域」「人材」「国際」を基軸に事業を展開しています。

#### 経営理念

##### Mission

私たちは、原子力技術が有する平和利用の可能性を最大限に活用されるよう、その開発利用の促進に努め、将来世代にわたる社会の持続的な発展に貢献します。

##### Vision

原子力がもつ価値の向上  
原子力がもたらす恩恵の共有  
原子力に対する信頼の確保

##### Value

###### ●客観性

原子力と社会との諸問題について、長期的かつ俯瞰的視点に立った活動を行います。

###### ●多様性

多種多様な会員構成により異分野・異業種間の相互交流が可能であり、原子力産業界の代表として、多様な意見を踏まえた先見性のある様々な活動を行います。

###### ●国際性

長年にわたり培ってきた海外関係者・機関からの高い認知と信頼のもと、グローバルな視点に立った国際協力活動を行います。

原  
產  
協  
會  
が  
展  
開  
す  
る  
4  
つ  
の  
事  
業



理事長 新井史朗

#### Activity 1 伝える 事業1 地域・国民理解の促進

#### 原子力の必要性を伝える

地球環境や将来世代にわたる社会の持続的発展に大きく寄与する原子力の有用性と可能性について、地域や国民の皆さんに広く理解が進むよう原産年次大会、メッセージの発信、次世代層・女性層へのアプローチなどを行っています。福島第一原子力発電所事故により失われた原子力への信頼の回復につながる理解活動を促進する取り組みを会員と共に進めています。



原産年次大会  
世界の原子力産業界にとって最大のイベントのひとつ。国内外の専門家を含め、約1,000名が参加し、毎年春に開催。



メッセージの発信  
現実的なエネルギー政策の実現に向け、原子力産業界の課題解決に資する提言を行い、原子力の必要性や可能性について広く社会に発信。



次世代層・女性層へのアプローチ  
双向コミュニケーション強化の一環として、大学・高等専等での出前授業、会員組織の女性を対象とした講演会、施設見学会を実施。



復興に向かた福島の状況を発信  
福島の復興状況や放射線の健康影響、現地取材による関係者の声や映像をホームページなどで国内外へ広く発信。

#### Activity 2 育てる 事業2 人材確保・育成

#### 将来にわたり原子力を担う人を育てる

原子力平和利用を将来にわたり安全に維持していくためには、原子力人材の確保と育成が必要不可欠です。優秀な人材の確保は産業界にとって大きな課題です。また人材の育成には長期間の努力が必要なことから、産官学が協力して「原子力人材育成ネットワーク」を構築し、当協会は共同事務局を務めるとともに、戦略的な人材育成を進めています。



原子力人材育成ネットワーク  
産官学の連携により、原子力に係わる人材育成や人材確保を図るネットワークとして、2010年11月に設立。IAEAと原子力エネルギーマネジメントスクールなどを開催。



合同企業説明会 原子力産業セミナー  
原子力産業関連企業などが参加する学生向けの合同企業説明会で、原子力産業への理解促進と将来の人材を発掘。



世界原子力大学への派遣支援  
向井隆記念国際人育成事業では、世界原子力大学・夏季研修へ若手技術者などの派遣支援を実施。



放射線教育支援  
中学・高校で放射線等について教える教員を支援するため、近畿大学原子炉を使った放射線教育研修会を開催し、教育現場での適切な指導を支援。

#### Activity 3 連携 事業3 国際協力

#### 知見・経験をもとに、世界と連携する

長年にわたり培ってきた海外関係者・機関と連携しながら、グローバルな視点に立った国際活動を展開しています。原子力利用の基盤強化や原子力産業の活力維持、原子力界におけるわが国のプレゼンス向上に資することを目的として、協力覚書をベースとしたアジア諸国や欧米諸国、国際機関と情報交換・人的交流を実施するとともに、会員の国際展開支援やそれに役立つ海外情報の収集発信を行っています。



世界各国との協力・連携  
アジア諸国・地域や欧米諸国との意見・情報交換を通じ、原子力の有効利用促進や原子力安全の向上に貢献。



国際機関との協力  
国際原子力機関などの会合への参加や展示会への出展を通じ、世界に日本の原子力産業をアピール。



国際展開支援  
英・仏・加・西・中などの原子力利用国と日本の企業との交流を図り、会員企業の国際展開を支援。



国内外への情報提供  
日本の原子力情報やニュースを迅速に海外に発信するとともに、海外の原子力事情を国内に紹介。

#### Activity 4 共有 事業4 会員連携

#### 広く、深く、原子力の情報を共有する

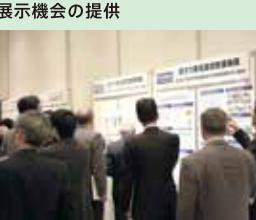
会員を対象に、国内外の原子力に関する有益かつタイムリーな情報をさまざまな分野から収集し、ウェブサイトやメール、講演会などを通して提供しています。また、情報提供のみにとどまらず、会員相互の連携をより緊密にすることを目的として、交流会やフォーラムなども定期的に開催しています。



原子力新年の集い  
会員相互の連携強化および交流をはかるため、毎年1月初旬に会員を対象として開催。



原産会員フォーラム  
会員へのタイムリーな情報提供を目的とした講演会および福島第一原子力発電所をはじめとする各発電所の見学会を、定期的に開催。



展示機会の提供  
原産年次大会などにおいて、会員の取り組みや技術・製品などを紹介する展示を行い、会員間の情報交換を促進。



会員などへの情報提供  
ホームページなどを活用した情報発信や幅広い国内外の情報を定期的に配信。